

## 授業科目 住居における環境学

科目コード番号

【担当教員名】 入江 建久	対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語・栄養・社会
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

## 【概要】

健康で快適な生活を保障する住居の環境的側面(空気、温熱、音、光、水)のあり方を中心に講義する。あわせて近隣環境として大きな意味をもつコミュニティの社会的側面についても触れる。

## 【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	住宅白書1998(「住まいと健康」特集) 居住福祉(岩波新書)	日本住宅会議編 早川和男	ドメス出版 岩波書店	1998, 3000円+税 1997, 640円+税
参考書	人間環境学, 高齢者のための建築環境	日本建築学会編 日本建築学会編	朝倉書店 彰国社	1998, 3600円+税 1994, 2825円+税
その他配布資料	プリント等適宜			

## 【評価方法】

レポート2回(第3, 9回各終了時出題) 30%, 学期末筆記試験 50%, 授業参加・態度 20%

## 【履修上の留意点】

日常、新聞、ラジオ、TV等マスコミで報じられる居住環境問題に常に関心をもちつづけること。

## 【本科目の一般教育目標: GIO (General Instructional Objective)】

住居がQOLを支える基盤であるという、基本的認識の上にたち、健康で快適な住生活を保障する環境的側面を理解する。

## 【行動目標: SBO (Specific Behavioral Objectives)】

1. 住まいが生活の全てを支える基盤であることを理解できる。
2. 基本的な人権としての住まいの位置づけを説明できる。
3. 生涯の8~9割を過ごす住まいの貧困が、即住環境の貧困に結びつき、健康を阻害する一大要素となることを理解できる。
4. 室内空気汚染問題について、その諸相とシックハウス問題、アレルギー問題等との関連を説明できる。
5. 高気密化した現代住宅の特徴と、「通風・換気」の重要性を説明できる。
6. 温熱環境について、わが国の気象条件、住居の温熱条件の健康影響、省エネルギー問題等を理解できる。
7. 音環境について、騒音問題や「聞こえ」の衰えへの対処を理解できる。
8. 光環境について、日照問題や、視覚の衰えへの対処を理解できる。
9. 水環境について、給排水設備の概要や湿度問題を理解し、微生物感染問題も関係することを理解できる。
10. 高層居住問題等、現代のコミュニティの特徴と子どもや高齢者の健康問題を理解できる。
11. 健康に住まうためには、建築関係者の努力だけでなく、医療、福祉関係者とのネットワークづくりが重要であることを理解できる。

# 授業計画

教室

回数	授業内容	SBO 番号	担当教員	教授学習法	学習課題 又は 備考
1 ～ 3	1. 住居とは 1) 住の位置づけ 2) 住まいは人権 3) 国民生活時間調査より 4) 阪神淡路大震災の教訓	1, 2, 3	入江建久	一般講義	教科書 プリント
4 ～ 5	2. 空気環境 1) シックハウス・ロム 2) ハウス・ストとアレルギー問題 3) 微生物汚染	4			
6	3. 通風・換気 1) 通風、換気の意味 2) 換気理論	4, 5			
7 ～ 9	4. 温熱環境 1) 日本の気象の特徴 2) 温冷感と冷暖房 3) 省エネルギーと地球環境	6			
10	5. 音・光環境 1) 騒音問題と音響計画 2) 聞こえの保障 3) 日照問題 4) 視覚の保障	7, 8			
11	6. 水環境 1) 給排水・衛生設備 2) 水蒸気・水と微生物	9			
12	7. 高層居住の諸問題	10			
13	8. コミュニティの形成	10			
14	9. 住居における環境学総括 1) ADL, QOLと住居 2) 関係者のネットワーク	1, 2, 11			

## その他

履修前から「住まい」のあらゆる面に関心を向けはじめてください。

今の住まいで満足か - どのあたりに住みたいか - 家賃は高くないか - 日当たりはよいか - 掃除はしやすいか - 風呂は? トイレは満足か - ふとんがよいか ベッドがよいか - 騒音がうるさくないか - ペットが飼えるか - 実家の間取りが描けるか - 隣の芝生は美しく見える? - 将来マンションに住んでみたい? - 隣近所の人と挨拶できるか、しやすいか - 等々